

森林保全 ゲームで学ぶ

山中湖の児童 自然散策体験も

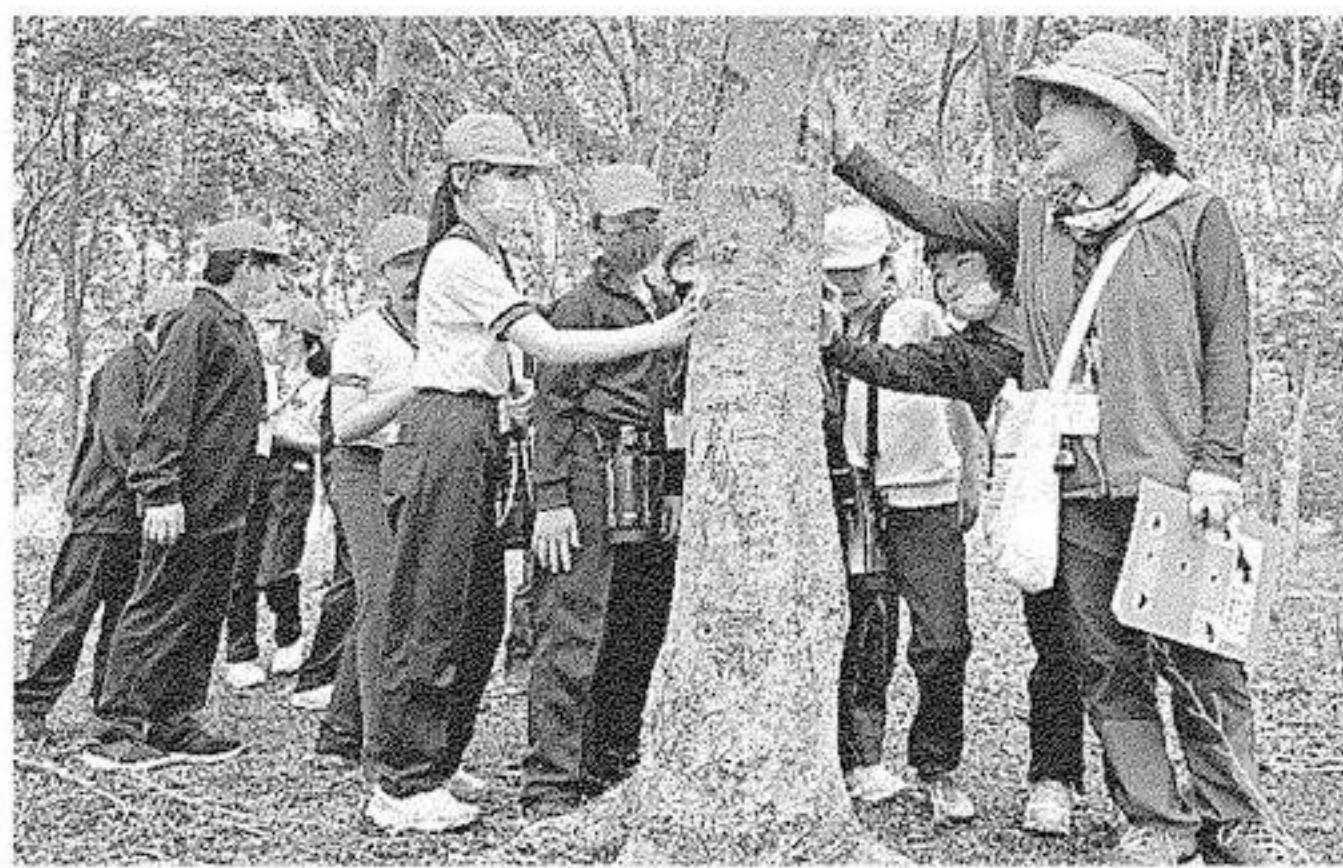


モリトミライを楽しむ児童
＝富士吉田・ふじさんのぬく森キポキポ

山中湖村教委は29日、富士吉田市上吉田の森林学習施設「ふじさんのぬく森キポキポ」などで、カードゲーム「モリトミライ」(モリト

ミライ)や自然散策体験を通じて森林について考える学習会を開いた。施設を所有する富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合(吉田恩組)が

協力し、同村の山中小と東小の5年生計40人が参加した。モリトミライは、森林に関心を持ち、持続的な活用に必要な行動を考えてもらおうと山梨日日新聞社が開発したカ



自然散策で木に触れる
児童ら＝富士吉田市内

ードゲーム。児童らは4人1班となり、参加者全員が一つの町に住んでいるという設定で、「木を切る人」「販売会社の社員」など10の役割のうち一つを担当。役割ごとに行動を示すカードを使い、森林の現状を示す四つのメーターに配慮しながら、設定された資金の獲得といったゴールを目指した。自然散策では、施設職員のご案内で遊歩道を散策したり、間伐材を破碎して作る木質バイオマスの生産施設を見学したりした。山中小の土田昇大さんは、学習を通じて「森がなくならないように、未来につなげなければならぬ」と感じた」と話した。〈赤池悠〉